

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3070101765		
法人名	社会福祉法人 喜成会		
事業所名	グループホーム喜成会		
所在地	和歌山県和歌山市北野118番地の2		
自己評価作成日	平成31年3月23日	評価結果市町村受理日	令和元年7月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070101765-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3070101765-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	令和元年5月27日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

個々の認知機能に応じた生活支援が行えるよう、事業所理念である「笑って泣いて、人生つれもていこう」をスタッフ間で共有し、一人ひとりが大切な人としての存在を認めながら共同生活を安心して過ごせるよう取り組んでいます。理念の実現を目指すために、個々のアセスメントに基づいた先を予見したケアをチーム全体が重視し、「ここにおってもええなあ」と感じてもらえる雰囲気づくりに努めています。また、入居者の平均年齢が90歳を超える中で身体的な側面についても個々の生活機能を理解し、かかりつけ医との連携も積極的に図りながらグループホームでの生活が継続できるようにスタッフ一同、思いをもって関わっている。認知症という状態でわからないことや出来ないことで入居者間のトラブルもありますが、関係性支援を大切に日々の支援を行なっています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当該ホームは法人として毎月発行する「喜成会だより」に記事を載せ地域に回覧し情報を発信したり、地域の盆踊りや老人会の食事会、作品展に作品を出展したり、施設合同で行う祭りには多くの地域の方の参加を得ており、地域に開かれた施設作りと共に利用者が地域と関わりを持ち暮らせるよう支援しています。利用者を深く知り理解する事を大切に日々利用者に関わりながら詳細な介護計画を作成し、思いに添った暮らしに繋がるよう取り組んでいます。食事では週2～3回の買い物から台所での調理等を利用者と共に行い、家庭的な雰囲気の中で職員は食事介助や見守りながら一緒に食事を摂っています。また利用者の事をより知ってもらえるよう動画を利用したり、家族の来訪時や年に3回行う家族会では意見を出せる時間を設けて家族の声を聴く等家族との関係も大切に支援をしています。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をわかりやすい言葉で掲示し、毎日の朝礼時に入居者と共有している。実践においては認知機能の違いがある中で入居者と共に過ごすための関係性支援に力を入れている。	ホーム独自の理念を共用空間の複数ヶ所に掲示すると共に理念を実現するためにアセスメントの大切さなど実践に向けて分かりやすい表にまとめ掲示しています。理念は毎朝利用者と共に唱和し、年初の会議や職員の入職時には込められた意義を伝えています。更に理念を日々の生活に活かせるよう具体的な目標を作り、実現に向けて取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り、回覧板に事業所の機関誌をはさんで回したり、玄関掃除や散歩の際に地域の方々と挨拶を交わすなどしている。また、地域の各種行事にも参加するよう心掛け、顔の見える関係づくりに努めている。	地域の盆踊りや春と秋に行われる敬老会の食事会、防災訓練などの行事に利用者と出かけたり、年に2回行われる作品展に利用者で作った作品を出展し見学に行っています。併設施設に歌などのボランティア来訪時は利用者が参加をすることもあり、施設合同で行う祭りには多くの地域の方の参加を得ており、地域に開かれた交流を行っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に地域の方々に参加して頂いている。また、管理者は現場での実践を踏まえ、認知症サポーター養成講座の実施や認知症カフェへの参加、認知症啓発のイベントなど行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の定期開催を実施している。その中で入居者の状況や事業所の取り組み、日常的なケアの様子を報告、また身体拘束を行わない取組など、参加者より意見を頂き、自施設のケアに反映している。	会議は家族や自治会長、地区人権委員、他法人管理者、市役所支所長などの参加を得て開催しています。会議ではスライドを用いて利用者の生活の様子や外出行事などの他、職員体制などについて報告し、報告に関する感想や質問に答えたり、参加者から感染症に関する注意喚起などもあり、ホームへの理解と共に運営に活かせる有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には圏域の支所の所長に出席して頂いている。また、市地域包括支援課と連携し、サポーター養成講座やキャラバンメイト連絡会として、認知症啓発の研修やイベントを実施している。	市役所支所長は毎回運営推進会議に出席を得ると共に管理者はキャラバンメイト連絡会の立ち上げや小学校や警察署、警察学校など様々な場所でサポーター養成講座を開催するなど市の取り組みに連携して関わっており協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者(権利擁護推進委員)が中心となり法人内外研修の伝達や日頃のケアから身体拘束をしないケアについて、ミーティング等で話をしている。また昨年度より身体拘束廃止に向けた指針をつくり運営推進会議の中でも、その取り組み内容などを開示し意見をいただいている。	身体拘束に関する研修の実施やミーティング時に身体拘束について話す機会もあり、言葉による行動の制止を含む身体拘束について職員の理解も深まっています。出入口は施錠せず利用者の行動を理解し対応することを大切に見守っています。また工夫しながら外出の機会を増やしたり、職員のストレス管理にも努めながら拘束感のないよう支援に取り組んでいます。	

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、研修を含め、ミーティングや月1回のスタッフ会議を通じて防止に努めている。また運営推進会議においても、虐待防止に関する取り組みや行動心理症状等への対応方法などを伝えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修で学ぶ機会を設け、スタッフ会議において研修報告を行い共有している。また、後見人制度を利用されている方の利用の方への適時報告を行うなどしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族の話を傾聴し、入居に対する不安やこれまでの介護負担を共感するよう努めている。入居にあたっては事業所のケア方針や様々なリスクに関しても説明を行ない、納得した上で入居して頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常から入居者の声に耳を傾け、反映できるように努めている。また、ご家族には面会時などにコミュニケーションを図ることで関係作りにも努めている。家族会を開催し交流機会も設けている。	利用者には日々の中で希望を聞き、行きたい場所等の外出支援に繋がっています。家族へは毎月暮らしぶりを載せた新聞を送付し、家族の来訪時に様子を伝える中で聴いたり、年3回行事を兼ねて行う家族会では意見をもらう時間を設けています。また来訪の少ない家族へは電話等で聞いています。運営に関する意見は出にくい状況ですがリハビリの希望等はその都度個別に対応しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、毎月のスタッフ会議や現場に入ることでスタッフの意見等を聞く機会を設けている。また、年2回の人事考課フィードバック面談を行なっている。	職員の意見や提案は月に1度のスタッフ会議や毎朝のミーティングなどで聞いています。会議では職員へ事前にテーマを提示し、全職員に発言してもらうよう工夫しています。また職員には食品や備品管理などの役割があり、職員間で考え相談しながら決めています。働きやすい職場環境にも配慮し、年に2回実施している個別面談も個人目標の達成度の確認と共に意見や希望を出せる機会となっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課フィードバック面談で設定した自己目標に関して話し合い、適時アドバイスをするなど、スタッフのモチベーションの維持、向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外への研修参加の機会は設けているが、スタッフ個々に見ると参加頻度に格差がある。管理者は個々のレベルを把握し、OJTによる指導を行なっている。また、スタッフ会議などで認知症の関連情報を伝えるように心掛けている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は認知症介護指導者やキャラバンメイトとして様々な場面で交流をもつ機会があるが、スタッフに関しては外部研修にいくとぎらいしか交流の機会がない。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に訪問し、ご本人の現在の状況やこれまでの経緯などを把握し、入居に対する不安などを軽減できるよう努めている。また、センター方式シートを活用して情報を共有し環境に配慮する関わりを行なっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が苦勞されてきたことなどの思いを汲み取り、事業所理念に基づき、ご本人のどのような状態を目指して支援していくかの説明を行なっている。また、随時情報提供などを行ない関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	収集した情報を元に実際に関わりながらご本人の出来ること・出来ないこと、わかることなどを見極めている。また、入居に至る要因となった事象にも着眼し、課題解決に努めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや後片付け、洗濯などご本人が出来ること、支援があれば出来ることを重視し、生活を実感できるような関わりを大切にしている。「ありがとう」の言葉がやりがいや生活の張りになり、次につながる支援、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の現状やニーズを情報提供し、ご家族と共有できるよう努め、時に協力など支援を共に行えるようにしている。また、状態変化に応じて相談しながら、ご本人やご家族の希望など踏まえ支援の方向性を検討している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけのスーパーや美容店の店員の方から声をかけてもらったりと馴染みの関係が構築されており、面会に来られた方とゆったり過ごせる時間作りにも心掛けている。また、お寺参りの習慣を継続できる支援を行っている。	遠方の兄妹や近所の友人などの来訪時は居室に案内し、ゆっくり話ができるよう配慮をしています。利用者の高齢化が進み希望は減っていますが、職員が付き添い習慣だった寺参りを継続したり、年賀状や暑中見舞いのやり取りをする方もおり、職員と一緒に携わりながら継続できるよう支援をしています。また日頃から職員と昔話をしながら懐かしむ方もおり、利用者の話を聞き会話をしよう心がけています。	

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が自然に世間話をしたり、「ありがとう」といった感謝の言葉が出るような場面作りに努めている。そのために入居者の状態に目を配り、認知機能の違いから生じるトラブルを回避し、関係性への支援に力を入れている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も入院先に面会に行ったり、医療機関への情報提供、次のサービス利用の相談を受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での言動や入居者間の対話など、ケア記録やセンター方式の書式に記載し、スタッフ間で情報共有するよう努めている。また、意思表示の難しい方にも表情や仕草から把握するよう努めている。	入居時は自宅や入所している施設等を訪問し利用者や家族から生活歴や意向を聞いたり、家族にはこれまでの状況を書いてもらう事もあり、アセスメントにまとめ意向の把握に繋げています。入居後は利用者の意向に繋がる様子などを個人記録やアセスメントに追記し、把握が困難な場合には利用者を理解し思いが把握できるよう表情や行動等から思いを探り、職員間で検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らし方はご本人やご家族から情報を頂き、センター方式の書式を活用してスタッフ間で生活様式の把握に努めている。また、利用していた介護事業者からも情報提供して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケース記録やセンター方式のシートを活用するなど、スタッフ間で情報を共有し現状把握に努めている。また、ご本人の言動などから今の気持ちを推し量り、より良い支援に繋げるよう心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間の話だけでなく、ご本人の言動やご家族の思いをもとに、再アセスメントを行い、その方に必要な支援は何かを検討し、介護計画を作成している。また、月に1回担当者がモニタリングを行ない、スタッフ間で意見交換している。	介護計画は日々の関わりの中で把握した本人の思いや来訪時に確認した家族の意向などを踏まえてアセスメントを行い、定例会議の中で担当者会議を開き作成しています。日々の個人記録には計画を意識できるよう目標を印字し、実施状況を記録しています。毎月担当職員がモニタリングを行い、変化の無い場合は3ヶ月毎に本人や家族の思いを聞き再アセスメントや会議を行い介護計画を見直しています。主治医には往診時などに意見をもらい反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を時間軸で記録し、個々の状態を共有している。ケア場面の情景がわかるよう記載することで、他のスタッフがケアに反映できるよう努めているが個々によって表現方法など差異があるのも事実。プランもケース記録と連動させている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来るだけ柔軟にその人にとって必要と考えられることは可能な限り対応している。また、早期退院に向けて医療機関との連携を図ったり、家族との話し合いを行うことで多機能性を見出している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや美容院、花屋を利用したり、近所への散歩や清掃活動、自治会主催のイベントに参加するなど交流機会をもっている。また出来るだけホーム内だけでなく外にも暮らしの範囲を広げられるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はご家族の希望を伺っているが現在は入居者全員が2ヶ所の協力医で診て頂いている。また、整形の往診を月に1回して頂いている他に必要に応じ他科への受診も援助している。	入居時にかかりつけ医の希望を聞き、入居当初は継続しその後徐々に協力医に変更する方も多く現在は全員が2ヶ所ある協力医に変更し、往診を受けたり必要に応じて受診しています。歯科などの専門医への受診を含めて基本的に職員が付き添い、状況により家族にも同行してもらったりその都度情報を共有しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所には看護師は配置されていないため、緊急時など必要に応じて同一建物内通所介護の看護師に支援を依頼している。また、往診時や外来受診時に日常の様子を詳しく伝えるよう心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には必要に応じた援助を可能な範囲で行い、リロケーションダメージを軽減するよう努めている。また、医療機関と相談しながら出来るだけ早い段階での退院に努めている。そのために事業所内で出来る支援の幅を持たせる努力を行なっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の意向は入居時に書面で確認しているが、その時のご家族の状況によって気持ちの変化などもあるため、随時話し合いを行なうようにしている。その中で出来るだけ柔軟な対応が出来るよう努めている。	入居時に終末期に関する意向を確認し、ホームの対応について説明し、昨年度外来受診を継続しながら看取り支援を経験しています。本人や家族の意向を踏まえ最大限支援することを伝え、その時々で家族と話し合いを重ね、今後の予測なども伝えながら方針を決めています。本人が穏やかに過ごせることを大切にしながらホームでできる限り長く過ごせるよう支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルは整備している。また、法人内で普通救命講習を実施したり、その他の研修に参加しているが、実際のところスタッフ間では緊急時の判断や対処に不安を感じている。体調不良者等出来るだけ早期の対応等に努めている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の入居者を含めた避難訓練を実施している。現在は法人内において各事業所の災害対策推進委員会を中心にマニュアル整備を行なっている。地域との協力体制はこれからの課題。(今年、自治会の防災訓練に入居者と参加)	年に2回昼夜を想定し、施設合同の訓練を実施し、通報や利用者の避難誘導、消火器の使用方法等を行っています。火災時はベランダに避難する事を消防と確認し、昨年台風では停電を経験しランタン等の備品を購入しています。また地域の訓練には利用者と参加し、法人として地域との協力関係作りについて自治会と話し合っており、ホーム独自の備蓄についても法人と検討しています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご本人の気持ちに配慮しプライドやプライバシーを護る支援を心掛けている。具体的にはトイレ誘導時にはさりげない声掛けを行ない、常に言葉の乱れ等ないかミーティングや会議で意識付けするよう努めている。	接遇に関する外部研修を受講し不参加の職員に伝達しています。日頃は利用者の行動を理解し尊重することを大切にしており、時には利用者の反応を見ながら旧姓や下の名前で声掛けをする事もあり、本人に分かりやすい心がけています。言葉の乱れなどに留意し、不適切な声掛けが見られた場合はその都度注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の状態に応じて自己決定が出来る場面作りを心掛けている。朝の起床時や買い物など、日常の様々な場面で能力に応じた選択が出来るようにしている。意思表示の難しい方もおられるので表情等で見極めて対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の入居者の状況や天候などによって外出したり、ゆったり過ごして頂くなどの状況判断を常に行ないながら、入居者の重度化やスタッフ人員によって、業務優先や職員主体になってしまっている場面も見受けられる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みに応じた支援を心掛け、行きつけの美容院に出掛けて毛染めやカットをしている。起床時を含め普段から整髪などの身だしなみに気を配るように心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を囲み、スタッフと共に食事の時間を共有することを大切にしているが入居者に対する食事介助も増加し、楽しみながら少なくなっている。準備や後片付けなどは個々の能力に応じて、力を発揮できる場面をつくり、本人の意欲を高める声掛けなどを工夫している。	日々担当職員が利用者にも聞きながら献立を決め、週に2～3回の買い物に行ったり台所に立ち調理できる方もおり、利用者と共に食事作りを行い職員も共に食卓を囲み介助や見守りながら食事を摂っています。ホットプレートを用いてお好み焼きや餃子を作ったり、天婦羅や流し素麺などの他、家族会では花見弁当を取り家族の協力を得て豚汁なども作り家族と共に食事を楽しむ機会も作っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて食事量や水分摂取量をチェックしている。また、食事形態を個々の状態に合わせたり、脱水予防および健康管理の観点から必要に応じてOS-1や経口補助剤を医師と相談し使用するなどの配慮をしている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	基本的には毎食後に口腔ケアを行なっている。声掛けや直接的な支援を必要とされる方など、その人に応じた支援を実施している。義歯使用者には毎夕食後預かり、洗浄を行なっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をもとに個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導やポータブルトイレの使用など、自力排泄が出来るよう努めている。また、その日の状態によっても声掛けや誘導のタイミングをスタッフ間で確認しながら柔軟に支援している。	支援が必要な方は日々の個人記録にを基に排泄のリズムを把握し、トイレで排泄ができるよう支援をしています。その日の体調や水分摂取量等を把握したり、本人に合った排泄用品や支援方法などを日々のミーティングで検討し、申し送りノートで共有しながら失敗を減らし現状が維持できるよう支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便表により個々の状態を把握し、緩下剤の調整やオリゴ糖を活用するなどしている。繊維質の多い食材や乳製品を取り入れるなどの工夫をしている。また、トイレ誘導時には腹部マッサージを行い排便をサポートするようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴チェック表もとに入浴を促し、入浴して頂いている。決められた時間ではなく個々がゆったりと入浴できるよう支援し、また拒否のある方にもタイミングや本人の意思を尊重しながら支援している。	入浴は2日に1度を目安に間隔の空いている方から声をかけ、午前から夕方までの間で利用者の状況や職員体制なども考慮しながらできる限り本人が入りたいタイミングで入浴できるよう支援しています。また希望に添って夕食後に入浴する方や体調に配慮しながら全利用者が湯船に浸かれるよう支援したり、柚子湯なども楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状況に応じて日中の休憩時間を設けたり、日中の活動場面を取り入れるなど工夫している。また、就寝時にも室内温度や寝具の調整などを行ない、安眠できるように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容を十分把握できていないスタッフもいるため、入居者の状態に応じて再確認している。また臨時薬が出たときは、随時ミーティング等で説明し、状態変化など注意点を指示している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力を把握するとともに、暮らしてきた過程を踏まえた役割や楽しみが持てるよう支援している。その中で「ありがとう」の感謝の言葉を添え、意欲を高め、やりがいを持てるよう心掛けている。		

グループホーム喜成会

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人差はあるものの、日常の買い物を含めて気軽に外出できるような支援の考え方を持つようスタッフに伝え、実践している。ドライブや散歩、ちょっとした外気浴など、スタッフ間で連携を図りながら実施している。	年間を通して利用者と共に週2~3回の買い物の他、毎日交代で施設周辺の散歩やドライブなどに出かけたり、ベランダや施設前に出て外気浴をしています。また初詣や梅や桜などの花見、紅葉狩りやドライブなどの他、地域の盆踊りや食事会などに出かけたり、市役所へ用事で出向く際にも利用者と一緒に出かけるなど工夫をしながら外出の機会が多く持てるよう支援をしています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金を所持している方はおられない。外出時や買い物に行った際に、ご本人が欲しいものや必要な物を購入できる機会をつくるように心掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人に対して年賀状や暑中見舞いなど、季節の節目の便りをスタッフが一緒に楽しみながら作成し、投函している。電話に関しては、家族に電話したいと希望があった際には随時、使用できるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は食卓をはじめ、入居者が集えるパブリックスペースを設け、ゆったり過ごせるよう工夫している。吹き抜け窓には、四季や行事感を感じて頂けるようなレイアウトをしている。廊下にも椅子や家具を設置することで施設的な空間を和らげている。また、TVやBGMの音量・フロー内の室温などにも配慮している。	リビングは花を活けたり、季節に合わせた作品を作り飾っています。食事を取るスペースとテレビの前にソファを置き寛げるスペースに空間を分け、広い廊下にも畳ベンチや多くの椅子等が置かれ、好みの場所を選び自由に過ごせるようになっています。日々携われる方と一緒に掃除を行い、冷房は冷えすぎないよう利用者の体感に配慮し、乾燥する季節は加湿器を置き、過ごしやすい環境作りに努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の関係性や状態に応じることができるよういくつかのスペースを設け、過ごせるように配慮している。また、自室を活用して個々の安心できる環境調整も行なっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には昔から使い慣れたタンスや机、椅子、趣味の飾りなどを持参して頂き、ご本人が居心地よく暮らせるよう働きかけを行なっている。	入居時は新しい物ではなく自宅で使用している物を持ってきてもらうよう家族に伝えています。筆筒やテーブルと椅子、ソファ等を持参し家族と相談しながら過ごしやすいよう配置し、身体状況が変化した際は安全に移動できるよう変更する事もあります。家族の写真や孫の描いた絵、日本人形等を思い思いに飾り、好きな観葉植物を置く方や担当職員が本人が好む物等を考えて飾り、居心地よく過ごせるよう工夫をしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認知機能や心身状態の変化によって日常における生活場面での移動時や家具等の配置などに気を配ることで転倒事故などの予防に努め安全な環境作りを行っている		